スープで街に笑顔広げたい

江別の「ビストロ&カフェSOUP」

江別市2条2丁目のスープ専門店「ビストロ&カフェSOUP」がリニューアルオープンした。地元の野菜を使ったシンプルでやさしい味のスープにファンも多く、昨年12月以来半年ぶりの再開に、地域の人々は喜んでいる。

地元産の野菜のおいしさが溶け込んだスープの仕込みをする境さん

半年ぶりに再開

スープソムリエの資格を持つ境珠美さんが、昨年1月に開業した。東京出身の境さんは大学進学を機に北海道に移り住んだ。両親と一緒に美瑛でレストラン経営などに携わり、江別に移る前は、赤井川村で花と野菜関係の仕事をしていた。この間、野菜コーディネーター、発酵食スペシャリスト、薬膳アドバイザー、食育アドバイザーなど食に関する資格をいくつも取得した。

スープの店を開くきっかけとなったのは、2年前の北海道胆振東部地震。赤井川村に観光で訪れていた人たちに炊き出しでスープを提供したところ、「肌寒さも感じる秋の北海道で、温かいスープを食べた人たちの笑顔が印象的だった」(境さん)。

縁あってJR江別駅から千歳川方面に建つ築100年の旧北陸銀行江別支店の石造りの建物に引かれ、ここで店を開くことを決めた。建物は文化庁の登録有形文化財に指定されている。

野菜は、地元の生産者から直接提供してもらっている。食材は、アスパラ、ブロッコリー、トウモロコシ、ジャガイモ、ニンジン、ビーツなど旬替わり。野菜の味をじゃましない鶏もも肉の出汁を使い、味付けも最小限にとどめて素材のおいしさをしっかり味わえるようにしている。寒い季節には自慢のボルシチもラインナップに加わる予定だ。

境さんは「江別の人と野菜がなければ、この店のスープは完成しません。私自身も、この土地のファンとして、地域の人たちと一緒にまちの歴史をつないでいきたい」と話している。

現在提供しているスープは「ブロッコリーとブルーチーズのポタージュ」、サラダ、副菜、ライス、コーヒーか紅茶付きで1650円(税込)。食事のほか、コーヒー、ミルクコーヒー、紅茶などドリンクも提供している。

新型コロナウイルス対策のため、しばらくは月・火定休、午前11時から午後3時までの営業。

問／ビストロ&カフェSOUP☎090-9967-1971

日本最大級のホビー店開業

ラジコンサーキットなども併設

ホビーショップタムタム札幌店(厚別西4条2丁目8-7)がオープンした。

ホビーショップタムタムは、鉄道模型やラジコン、プラモデルなどを豊富に取り揃えた日本最大級の総合ホビー専門店。㈱タムタム(本社・名古屋市)が展開しており、地盤の東海地区4店舗、関東地区5店舗、関西地区、東北地区、九州地区に各1店舗の計12店舗を展開、札幌店は北海道初上陸となる。

店舗面積は約700坪(2310㎡)。鉄道模型、ラジコン、プラモデル、ミニカー、ミリタリー、フィギュアなどのほか、ミニ四駆コースやラジコンサーキット、エアガンのシューティングコーナー、塗装ブースのスペースも併設する。

建物敷地には「日本最大級のホビーショップ TamTam」のポールサインも掲げられている。

同店の髙橋幸治店長は、「お子様から大人まで幅広く楽しめる世代の交流の場として、親しまれる店を目指したい」と話している。

営業時間は平日が午前11時から午後8時、土日祝が午前10時から午後8時まで。

問／ホビーショップタムタム札幌店☎011-375-0701

厚別西にオープンした総合ホビーショップ「TamTam」

北海道初上陸のTamTam

やまびこ座とこぐま座が7月から再開

人形劇や腹話術…夏の特別公演も

東区と中島公園内

新型コロナウイルス感染症の影響で休館していた札幌市こどもの劇場やまびこ座(北27東15)と札幌市こども人形劇場こぐま座(中島公園1-1、地下鉄中島公園駅3番出口3分)が公演を再開する。

こどもの劇場やまびこ座では、7月11日(土)、12日(日)午前11時～昼12時、人形劇団あっぷるぱいの人形劇「だんごころころ」「ニッチモさんサッチモさん」(各回定員50人、3歳以上300円。電話受付のみの事前予約制)を上演する。

また、札幌を拠点に活動するプロの人形劇団による「夏の特別公演」を、やまびこ座では7月25日(土)と26日(日)に、こぐま座は8月1日(土)と2日(日)にそれぞれ開催する。いずれの公演も申し込みは、電話受付のみの事前予約制(8月公演の申し込みは7月14日から)。

申・問／やまびこ座☎011-723-5911、こぐま座☎011-512-6886

人形劇団あっぷるぱいの「だんごころころ」

ガッツンと夏限定!!カツカレーバーガー

上江別のアマムが商品化

上江別東町44-8の「ゆめみ野こむぎ工房　ドルチェ&ベーカリーカフェ　アマム」が夏限定のハンバーガー「カツカレーバーガー」を新発売した。

同店は、道産小麦を使った無添加のパンやスイーツなど約40種類を製造・販売している。

ハンバーガーは、昨秋ごろに商品化。パティの上にたっぷりの特製ミートソースとスライスオニオン、肉厚のカットトマト、レタスを自家製バンズでサンドした「アムアムバーガー」単品税別400円、ポテトとドリンクのセット税別600円が登場した。260gのボリュームで、食べ盛りの若者も満足大きさ。家族でシェアしている。小麦の甘みを感じるふわサクのバンズが、パティの旨みを引き立てる。

その後、「グラタンコロッケバーガー」(同)、「てりやきバーガー」(同)、「カツカレーバーガー」(同)がラインナップに加わり、先日「カツカレーバーガー」(単品税別480円、セット税別680円)がデビューした。カツは、歯切れのよい厚さに調整し、子どもでも食べられる辛さのカレールーをスパイシーなソースに見立てた。パンとカレーの黄金コラボに、カツの食感が食欲を誘う。

新作を考案した徳中篤志店長は「子どもや年配の方もおいしく食べていただけるよう、バランスを調整しました。今後も楽しいバーガーを考えたい」と話している。

ハンバーガーの販売は午前11時から午後3時30分まで。

問／ドルチェ&ベーカリーカフェ　アマム☎011-807-0300

アマムのハンバーガー全4種。右から、グラタンコロッケバーガー、カツカレーバーガー、アムアムバーガー、てりやきバーガー

メインディッシュにスペシャル料理登場

展望ビュッフェがランチ営業を再開

新札幌のホテルエミシア札幌(厚別中央2条5丁目5-25)は、7月3日(金)から最上階の「スカイレストラン　ハレアス」のランチ営業を再開する。これを記念して、フォアグラやトリュフを使用した特別メインディッシュなどを用意する。

スカイレストラン　ハレアスは、地上115mから360度パノラマの景色が見渡せる展望ブッフェレストランは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月上旬から臨時休業していた。再開にあたり、ブッフェコーナーに並ぶ料理はすべて個々盛りにしてシートやラップをかぶせ、ローストビーフなどはシェフが直接お客さんに渡す形で提供する。

テーブルで個別にオーダーするメインディッシュは「トリュフクリームシーフードグラタン＝写真上＝と「3年熟成黒豚の酢豚フォアグラの春巻き添え」＝同下＝、2種類のスペシャルメニューを用意した。

このほか、30階の中国料理仙雲で人気の飲茶各種や、日替わりで水餃子、ラーメン、スープカレー、パスタなど熱々の実演メニューも提供する。また30分間隔で焼きたてのパンを各テーブルにサービスする。

(絶景・ご褒美ランチ!セレクトビュッフェ)は一般2200円(税込)、小学生以下700円(同)、幼児(小学生未満)無料。午前11時30分～午後2時30分。

新型コロナ対策のため、入場制限を行う。予約はハレアス直通電話まで。WEB予約も受け付けている。

予／スカイレストラン　ハレアス☎011-892-3855(午前10時～午後3時)

ジブリ4作品を特別上映

イオンシネマ江別「風の谷のナウシカ」など

スタジオジブリ作品「風の谷のナウシカ」「ものの け姫」「千と千尋の神隠し」、「ゲド戦記」の4作品が、イオンシネマ江別(幸町35、イオン江別店4階)で特別上映されている。テレビで度々放送されるジブリ作品だが、劇場で再上映されるのは異例。新型コロナウイルスの影響で、新作映画の封切が延期される中、あの名作を映画館のスクリーンで鑑賞できるファンにはたまらない機会だ。

全国375館で上映される企画で、鑑賞料金は1作品につき、一般・シニア・大学専門学校生・高校生1100円、小中学生1000円、3歳以上900円、障がい者割引1000円。招待券、ACチケット、ポイント鑑賞は可能だが、各種割引券やクーポンは利用できない。

同館の松原史子総支配人は「スタジオジブリの名作を、もう一度劇場のスクリーンで堪能して」と話している。

7月からは新作映画や、公開が延期されていた作品が続々公開される予定。7月17日(金)には「今日から俺は!!」、7月23日(木)には「コンフィデンスマンJPプリンセス編」「中島みゆき夜会　リトル・トーキョー」、8月7日(金)には「ぐらんぶる」「映画ドラえもん　のび太の新恐竜」が公開される予定。

同館では新型コロナウイルス予防のため、入り口での検温やマスク着用、アルコール消毒、座席の間引きなどの対策を行っている。上映スケジュールなど詳細は公式ホームページまで。

問／イオンシネマ江別☎011-381-3866

ジブリ特別上映会をPRする劇場スタッフ

©岡本みね子事務所

八千草薫さん最後の主演作

「ゆずり葉の頃」追悼上映会

7月25日、札幌市教文会館

女優・八千草薫さんの最後の主演作で、第36回モスクワ国際映画祭特別招待作品「ゆずり葉の頃」(2014年・日／中みね子監督／102分)を上映する。札幌映画サークル主催の追悼上映会が7月25日(土)、札幌市教育文化会館4階講堂(北1西13、地下鉄西11丁目駅1番出口5分)で開かれる。上映開始時刻は①午前10時30分②昼12時30分③午後2時30分④午後4時30分⑤午後6時30分。料金は1000円。各回52人限定。事前にメール、電話で受け付ける。プレイガイドや当日券の販売はない。

過去を封印して生きてきた年老いた女性を主人公に、日本を代表する名優の八千草薫さんと仲代達矢さんが共演した感動的な人間賛歌。思い出の絵を捜す旅をする主人公を通して、彼女の人生と戦後の貧しい状況の中で胸にしまっておいた思いをつづる。共演は、風間トオルさん、岸部一徳さん、竹下景子さんら。「日本のいちばん長い日」などの故岡本喜八監督の妻で、プロデューサーの岡本みね子氏が旧姓の中みね子で監督を務める。繊細な物語と、美しい着物や日本画家・宮廻正明氏による劇中画なども見どころだという。

新型コロナウイルス感染症対策としてホール内は換気に注意し、受付には消毒液も用意。一定の間隔を空けての着席になる。来場者にはマスク着用なども呼び掛けている。

申・問／札幌映画サークル・岩本さん☎090-7055-0074、✉sapporocinema@yahoo.co.jp

岡田利規氏と山田晋平氏の新しい形式の演劇

〈映像演劇〉スカーツコートで上演／展示

7月14日～8月1日、中央区

岡田利規氏(演劇作家・チェルフィッチュ主宰)と山田晋平氏(舞台映像デザイナー)が取り組む新しい形式の演劇「チェルフィッチュの〈映像演劇〉『風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事の上演／展示』が7月14日(火)～8月1日(土)午前11時～午後7時、スカーツコート(北1西1／札幌市民交流プラザ1階)で行われる。入場無料。

〈映像演劇〉で上演／展示されるのは、スクリーンなどに投影された、等身大の役者の映像。映像の中で、役者は役を演じるが、そこには背景も奥行きもない。映像だからこそ、観客は接近したり凝視したり、通常の「演劇」とは異なる鑑賞の仕方をすることができる。

期間中は、スカーツスタジオで滞在制作した4本の新作を上映／展示する。作・演出は岡田氏、映像は山田氏、出演(映像)は足立智充氏、椎橋綾那氏。観客が映像を鑑賞し、役者の演技と観客の想像力とが合わさる時、映像が投影された空間は、演劇の生まれる空間に変わる。〈映像演劇〉を見ることで、観客は「演劇」として発生するフィクションと、「映像」であることで発生するフィクションという、2つの領域を同時に経験することになるという。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示時間などが変更となる場合がある。また、来場の際はマスク着用など、感染拡大防止への協力も呼びかけている。

問／札幌文化芸術交流センタースカーツ☎011-271-1955

〈映像演劇〉展覧会風景「働き者ではないっぽい3人のポートレート」
(熊本市現代美術館「渚・鏑・カーテン　チェルフィッチュの〈映像演劇〉」(2018)より)©宮井正樹

菊の家×ベイクド・アルのコラボ商品第2弾

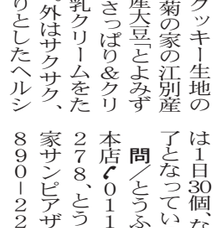
えべつ豆乳シュー販売

とうふ工房　菊の家で

江別産大豆・道産大豆を使用した手造り豆腐を販売する、とうふ工房　菊の家㈱菊田食品／錦町13-5)と洋菓子メーカー㈱ベイクド・アルル(上江別464-9)のコラボ商品第2弾、「えべつ豆乳シュー」(税込216円)が数量限定で販売されている。

えべつ豆乳シューは、江別産小麦を使ったベイクド・アルルの特製クッキー生地のシュー皮に、菊の家の江別産豆乳と江別産大豆とよみずきで作ったさっぱり&クリーミーな豆乳クリームをたっぷり使用。外はサクサク、中はしっとりとしたヘルシーなシュークリームだ。販売店舗は、とうふ工房　菊の家本店(若草町4-2／営業時間月～土曜午前9時～午後6時・日曜は午後2時まで)とサンピアザ店(サンピアザ地下1階／営業時間午前10時～午後9時)ほか札幌市内菊の家各店で、販売個数は1日30個、なくなり次第終了となっている。

問／とうふ工房　菊の家本店☎011-381-2278、とうふ工房　菊の家サンピアザ店☎011-890-2290



えべつ豆乳シュー

まんまるルーム

今回のテーマは…

「むかし遊び」

まんまるルームなら三密になりません！みんなで楽しくおしゃべりしましょ♪

サッカーボールはまだない時代だったので、缶を蹴って距離を競ったり、棒のそばまで飛ばした人で順位を付けて、得点を地面に書いて遊んでいました。竹馬は竹がないので木の棒に板を括り付け、駆けっこ競技をよくやりました。雨の日は室内でメンコ遊び。メンコに印刷された武士や力士、野球選手、映画スター、マンガの主人公など、自分の好きな絵柄をかけさやかに遊んでいました。(トムラウシ山70代無職)

◆

笹舟を作って、川に浮べた思い出があります。お金を使わず、身近にあるものを工夫して遊んでいました。(SORA60代無職)

◆

「だるまさんがころんだ」です。ちょっとでも動いたらオニを交代する緊張感。夕方、母親の「ごはんだよ」の呼び声にあわてて帰ろうとして、こけた思い出があります。(長瀬さん70代主婦)

◆

「ケンパー」をよくやりました。子どものころ官舎に住んでいたので、外に出たら遊び仲間はたくさんいました。地面にマルを描いてコースを作り、片足(ケン)、両足(パー)を繰り返しながら一番早くゴールした人が勝ちです。大人数でやると、石で通ることのできないマルがいっぱいになり、大変盛り上がりました。懐かしく、今度孫と遊びたいです。(くーやん60代主婦)

◆

当時私が住んでいた故郷は道南の避暑地と呼ばれる町でした。三軒長屋の子どもたちと一緒に家の前にゴザを敷き、海で拾ってきた貝殻をお茶碗・砂をお米、草や野花をおかずに見立てて、おままごとをしました。テレビや電話もなかったけれど、のどかな時間が流れる幼少時でした。(昔の山ガール70代パート)

◆

お母さんは仕事なので、祖母の家で過ごしています。祖母から、おはじきを教えてもらった時、びっくりしました。親指と人差し指で弾き飛ばすのがなかなかうまくできず、最初は苦労しましたが、今は上手にできます。昔遊びをたくさん教えてくれる祖母に感謝しています。(HMK10代中学生)

◆

炭鉱町で育った私は、学校の廊下でおはじき、おてだま、ガッキ(竹さおの一節を8本位に割った2×18位の棒)などで遊びました。当時は1教室50人くらい。11クラスもあり、休み時間の体育館では、元気のよい男子はすき間を縫うように走り抜けていました。(のん子70代無職)

◆

おもちゃ屋で、リカちゃんの服やキッチンセットなどを買ってもらい、妹と遊んでいました。手芸が得意な祖母に習って、自分でリカちゃんの洋服も作りました。小さなファッションショーは、当時の流行など勉強になりました。遊びながら、学びって大事だなとしみじみ思います。(ちび子30代会社員)

◆

おはじき、あやとり、ゴム飛びなど、書きながら昔を思い出して、幼い日の友達はどうしているかと会いたくなってきました。ほのぼの嬉しい投稿テーマに感謝。(長谷川さん80代)

◆

小学生のころ、3歳下の弟と2人で、家の近くのドブ川でおたまじゃくしをたくさんとりました。水槽で育てていましたが、カエルになる前に"共食いですべていなくなってしまうという、ホラーな思い出です…。最後の一匹はどうなったんだっけ…?(マントル40代主婦)

◆

森林から木材を運搬する「バチバチソリ」を作り、毎日山に行って遊んでいたのがよい思い出です。(奥山さん80代無職)

◆

お正月に父手作りの「ふくわらい」で、妹弟4人で大笑いした思い出があります。(花一輪60代自営業)

◆

昭和30年代ころの「かんくれんぼ」です。戦時中の防空壕が近くにあり、そこで子ども15人くらいで遊びました。防空壕の中は冬は暖かく、夏は涼しかった。真っ暗なので、自作のカンテラで照らしながら探すという、今思うと危険な遊びでしたね。(大麻のオッサン60代パート)

◆

ファミコン全盛期の小学時代、私たちの間では「おばけごっこ」が人気でした。部屋の中に、布団や段ボール、レジャーシートなどをつかっておばけ屋敷を制作。カーテンを閉めて、驚かせる…という遊びです。盛り上がりすぎて、友人の母にはよく怒られましたが、子どもだけで協力してオバケ屋敷を作るのが楽しかったんだと思います。(ありのまま40代接客業)

◆

むかし遊びの代表格にコマがありますが、私の年代では、より進化したコマが流行りました。それが「ベイブレード」。ミニ四駆のコマ版と言えば分かりやすいでしょうか。パーツを組み合わせて自分だけのコマを作り、戦わせる。毎朝小学校へ行く前に、友達に少しだけ早く私の家に寄ってもらって対戦するのが日課でした。早く学校に行けという母親からの視線がとても痛かった。(ちびっとたかはら10代高校生)

◆

フラフープです。小学校4年くらいでした。当時はまだウエストも細かったのでフープはよく回りました。1000回まわして、自慢していました。あまり熱中すると「腸ねん転になる」と脅かされたものです。(のんちゃん70代主婦)

◆

一番夢中に遊んだのは、ゴムを巻いて飛ばす木工飛行機です。竹ひごをアルミ管でつないで紙を貼り付けて主翼と尾翼を作り、滞空時間を競って遊びました。(伊藤さん60代無職)

◆

「しのぶ」という、かくれんぼです。地面に円を描き、その中を4等分して、小学校、○○公園などの場所を書きます。鬼がその円に石を投げ、石の入った場所まで行き、戻ってきたら探し出すのです。場所をどこにするか決めるのも楽しかったです。すごい近い場所から遠い場所まで、みんなでワイワイ言って決めました。(しのぶ50代会社員)

◆

もう40年以上昔のこと、小学生だった私は友達と「まりつき」をして一緒に遊んでいました。「いーちでらいらい♪」の掛け声に合わせて、手足を器用に使って楽しんでいました。今でもぱっちり出来るから不思議です!(福寿草50代主婦)

◆

今回、採用された方の中から、抽選で10名様にクオカードを進呈します。発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。次回テーマは「小さな幸せ」。次回もたくさんのご投稿、お待ちしております。

【まんまる新聞編集部】

まんまるルーム

みなさんの投稿を募集します！

投稿テーマ「小さな幸せ」締切は7/17(金)必着です！

「会社の帰り道、赤信号で一度も止まらなかった」
「疲れた時はちょっとお高めの紅茶を飲むのが何よりの幸せ」など、
アナタだけのささやかな幸せをお寄せください。
採用された方の中から、抽選で10名様にクオカード(500円)を進呈します。

「氏名(フリガナ)・ペンネーム・郵便番号・住所・電話番号・性別・年齢・職業」を明記のうえ、「郵送」「FAX」「メール」のいずれかで、「まんまるルーム宛」までお寄せください。

郵送　〒004-0055 札幌市厚別区厚別中央5条4丁目3-4 まんまる新聞「まんまるルーム」宛
FAX　011-892-4116
メール　m-room@manmaru-sinbun.com

※投稿作品は、内容を審査した上で採用させていただきます。
※投稿作品は、スペースの都合等で編集する場合がございます。
※氏名・住所等個人が特定される情報は掲載いたしません。
※頂いた個人情報は賞品発送及び本紙編集にかかわるものだけに使用します。

スマホから簡単に!

官製ハガキ応募用(オモテ)

官製ハガキで応募の場合は、用紙をそれぞれ点線から切り取りハガキのオモテとウラに貼るとカンタンです★

〒004-0055
札幌市厚別区厚別中央5条4丁目3-4
まんまる新聞「まんまるルーム」宛

差出人
住所　〒
氏名(フリガナ)　(男・女)
ペンネーム　電話番号
年齢　職業

まんまるルーム　投稿テーマ「小さな幸せ」

官製ハガキ応募用(ウラ)